

学生会だより

中国四国学生会の活動 (中国四国学生会)

中国四国学生会は、中国 5 県（鳥取、島根、山口、広島、岡山）と四国 4 県（高知、徳島、香川、愛媛）の 14 大学、12 工業高等専門学校に属する 780 余名の学生会員を擁する組織である。以下に、中国四国学生会の主な活動状況について紹介する。

1. 卒業研究発表講演会

卒業研究発表講演会は、支部内の大学を会場として毎年 3 月初旬に開催される。これは、学生が座長を務めるなど学生諸君が運営の中心となって実施される卒業研究の成果発表会である。2009 年度（第 40 回）は、2010 年 3 月 5 日（金）に広島工業大学で開催され、申し込み件数 345 件だった。昨年より 20 件余り多い講演数となったため、部屋数も 1 部屋増やして 16 室もの会場で研究発表が行われた。各発表に対して、他校の指導教員等からの質問や助言とこれに対する発表者の応答があり、とくに優秀な発表に対しては優秀発表賞が授与された。受賞した学生に聞いたところ、「思いがけない受賞であり、大変嬉しかった。卒業後の進路先でがんばろうという勇気と意欲が湧いた。」とのことだった。最近 5 年間の講演申し込み件数は、着実に増加（第 35 回：237 件、第 36 回：282 件、第 37 回：297 件、第 38 回：317 件、第 39 回：320 件）している。

ちなみに、手元にあった約 30 年前の第 8 回では 64 件であり、原稿も手書きだった。学生会員数も 2005 年の 538 名から 2010 年の 756 名へと大幅な増加を示しており、減少傾向にある正会員数の動向に比較し

て、大変喜ばしいことと思う。一方で、出席した教員から、「昔に比べて発表の仕方はよくなっているが、質問をする学生が少なくなるなどマンネリ化が大きな問題だ。」との声が出ている。こういった意見を参考にして、今後の発表会を質・量ともによい充実したものにしていくことが、学生会活動の活性化につながると考える。図 1 は、卒研発表会の翌日実施された 48 期総会・講演会の行事の一つである特別講演会のひとコマであり、学生・院生も多数参加している。なお、2010 年度の第 41 回学生会卒業研究発表講演会は 2010 年 3 月 4 日（金）に岡山理科大学で開催される予定である。

2. 機械の日・機械週間

8 月 7 日の「機械の日」を中心に 7 月末より 8 月末にかけて、中国四国支部の各校でも例年どおり「機械の日」行事が開催された。小中高生および一般人を対象に、さまざまな企画が実施され、各校とも多数の参加者があった。最も多いのが、オープンキャンパス時のポスタ掲示、パンフレット配布、研究室開放と見学会（図 2）だったが、そのほかにも講習会や講演会の実施などもあった。例をあげると、松江工業高等専門学校・米子工業高等専門学校合同の「メカ工作教室～クワガタ虫を作ってみんなで対決しよう～」、鳥取大学の「ライントレースロボット初心者講習会」、徳島文理大学の中高生の体験学習として「ホーバークラフトを作ろう！」や山口大学の「ソーラーカーの試乗会、ロケット打ち上げ、電動車いす試乗会」などである。各校とも院生・学生が説明をすることも多く、彼らは小学生などに解りやすく話すことの難しさにとまどいながら一生懸命に頑張っていた。このような体験は、後日彼らのプレゼンテーション力



図 1 特別講演会（広島工業大学）



図 2 オープンキャンパス時の見学会（岡山理科大学）

の向上につながるであろう。また、参加した小中高生の生き生きとした目の輝きから、「機械の日・機械週間」の実施をとおして、機械学会の説明はもとより「ものづくり」や先端機械システム技術の啓蒙につながっていることをひしひしと感じた。

3. 親睦会ほか

上記の活動のほか、研究の合間に学生員同士の親睦を深めるために、地区によってはソフトボール大会や駅伝大会などが実施される予定である。また、9 月 7 日に名古屋工業大学で開催された 2010 年度年次大会時の「委員長校会」・「学生交流会」に中国四国支部学生会委員長として下山悠君（岡山理科大学）が出席し、支部活動等について紹介した。

〔岡山理科大学 工学部機械システム工学科 教授 金谷輝人、高見敏弘〕